

少子化や人口減少で閉鎖になった保育園や小学校、スーパー・マーケットなどを福祉施設に改修して活用するケースが長野県内で増えている。もともと住民に愛着のある施設を転用すれば、高齢者が多い地域の活性化拠点になりやすい。住み慣れた地域で人生を全うできるよう医療や介護、生活支援の仕組みを整える地域包括ケアシステムの考えにも沿っている。

# 福祉施設に転用



改修した「木島平」（東御市、写真上）。小学校を改修した「木島平」（木島平村）



改修した「木島平」（東御市、写真上）。小学校を改修した「木島平」（木島平村）

## 県内の廃校や閉鎖スーパー

北に浅間山、南に八ヶ岳を望む東御市御牧原。

赤い屋根の建物に入ると、高齢者や子どもたちが一緒に食事をしている。NPO法人、普通の暮らし研究所（同市）が運営する「台地の駅 御牧原岩井園」だ。発達障害児を預かる児童デイサービスと高齢者介護のデイサービスを併設し、障害者の就労支援もある。

2010年に閉園になった御牧原保育園をNPO法人が改装し、14年に開業。園庭が盆踊り会場になるなど住民に愛着のある場所だっただけに、市から福祉施設に転用できなかつた。岩井孝司理事長に相談があった。

少子化や人口減少で閉鎖になった保育園や小学校、スーパー・マーケットなどを福祉施設に改修して活用するケースが長野県内で増えている。もともと住民に愛着のある施設を転用すれば、高齢者が多い地域の活性化拠点になりやすい。住み慣れた地域で人生を全うできるよう医療や介護、生活支援の仕組みを整える地域包括ケアシステムの考えにも沿っている。

## 信州ポート

改修して福祉施設「里山の家 木島平」にしたのは社会福祉法人、みゆき福祉会（同村）。地域をやつくる施設運営代理として14年に開業した。地域の人々が集まるよう接骨院、障害者や障害児の活動支援、医療多機能型認定介護サテライト「毛幼稚所あすみ」とショートステイ施設として14年に開業して利用者と交流できるようにすれば」と話す。

毎週火曜日、施設の一室を預かる児童デイサービスを実施、手工芸などの作業を生かして遊び場や作業室に。高齢者が幼児をあやす姿もあり、利用者の間に壁はない。近く障害者も働ける純喫茶を開業。岩井理事長は語る。

保育園のホールや教室が開設して遊び場や作業室に。高齢者が幼児をあやす姿もあり、利用者の間に壁はない。近く障害者も働ける純喫茶を開業。

岩井理事長は語る。10年に閉校になった木井農林高校の生徒と施設利用者で畑をつくり、10年に閉園になった木島平村の北部小学校校舎を改修し地域の拠点に生まれ変わらせた。

わが家の大石ひとみ

改修して地域の活性化拠点に転用する。高齢者介護のデイサービスと高齢者介護のデイサービスを併設し、障害者の就労支援もある。

高齢者が多い地域活性化拠点に

生きる力

生きる力

## 地域包括ケアの役割担いややすく

少子高齢化で閉鎖になる小学校や商業施設が出てる一方、福祉施設の需要は高まっている。施設転用は自然の流れだ。住民に愛着のある施設だった

東御市の岩井園や宮田園町は、高齢者から幼児まで障害の有無に関係なく一緒にケアする施設がある。岩井孝司理

社長は広い建物の活用に「さん」と、隣はカフェ、いたマリーアントワネットをイメージした公衆トイレは西班牙風居酒屋にして、トイレは化粧スペースを設けて開いた。様々な世代が利用できるなど、車いすの障害者も使いやすい。

「住民が介護施設を

ぞいてくれるようになっ

た」と大石理事長。「生活

支援サービスも組み合わされ、在宅を基本に地域で暮らす「チエレステ」を直営で始めた。様な世代

が利用できる

施設

がつたため「富山型デイサービス」と言われる。

高齢者介護のデイサービスは医療・介護の連携や

地域で充実させ、住み慣れた地域で住み続けら

れる地域包括ケアシステムを普及させようとしている。施設と地域の壁を

社会的機能を持つ施設地に開いた「生協総合センター」が2015年4月に坂町の商業施設を移して毎月1回、物販部を残して医療・介護・福祉の総合拠点機能を持つ。園町は、高齢者から幼児まで障害の有無に関係なく一緒にケアする施設である。（宮内恵二）